

## ＜第二話＞地域と学生を繋ぐ教育活動の実践

### — 教育の特色を生かしたレクリエーション・サービス —

新潟中央短期大学 坂内寿子

#### 1. はじめに

第二話ではテーマを「地域と学生を繋ぐ教育活動の実践」と題しまして、地域に向けて学生が主体となって事業の企画、運営、評価といったプロセスを体験的に学ぶなかで地域を理解し、人との交流を深め、感動体験を共有できる様々な地域と学生を繋ぐ教育活動をレクリエーション・サービスと捉え、具体的なプログラムを紹介させていただきます。

#### 2. 大学の概要

はじめに、新潟中央短期大学の概要について紹介いたします。

新潟県加茂市に位置する新潟中央短期大学は、入学定員 80 人、収容定員 160 人の幼児教育科、男女共学の単科短大です。本学は昭和 62 年にレクリエーション資格の課程認定を受けて以来、幼稚園教諭二種免許及び保育士資格と併せて毎年卒業生の 8 割ほどがレクリエーション・インストラクターの資格を取得し、県内の保育所、幼稚園、児童施設において保育者として活躍しています。

本学の建学の精神は「業学一如」を掲げています。その意味するところは、学ぶという行為はただ単に自分自身を高めるだけではなく、世のため、人のための業であり、働くことにつなげなければならないとし、一方、働くという行為はただ単に経済的利便を図ることのみを目的とするのではなく、そこから謙虚に学ぶ姿勢を失ってはならないということです。

そうした建学の精神は具体的に教育内容として位置づけられ教育活動として実践されています。

本学が所在する加茂市の人口は約 32,000 人で、新潟県のほぼ中央に位置し、古くから北越の小京都と言われていました。東西に細長く、新潟市、三条市、五泉市、田上町と接しており、県立自然公園粟ヶ岳を水源とする加茂川の清流は、三方を山に囲まれた市街地を縦貫して信濃川に注いでいま

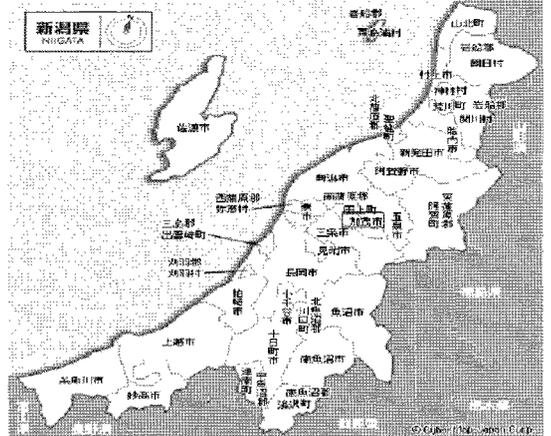


図1 加茂市の位置

す(図1)。

産業形態は複合産業が集積し、なかでも全国シェアの 70 % を誇る桐たんすや家具、建具、屏風など木工のまちとして全国的に高い評価を得ています(写真1)。

観光面でも、加茂山公園は加茂市の花「雪椿」の群生地として脚光を浴びています。

また「日本一の福祉のまち」を目標に福祉水準の維持、充実に努めています。また加茂市の公共施設である加茂文化会館を保有しており、そこでは芸術文化活動はもとより多様に施設を活用しています。

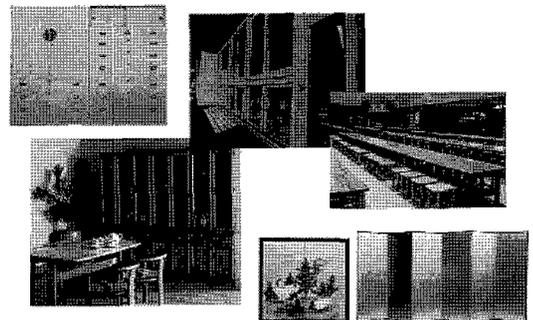


写真1 加茂市の産業

### 3. 教育の特色

#### 少人数制教育

新潟中央短期大学の教育特色の第1は小規模校だからこそできる徹底した少人数制教育があげられます。幼児教育者・保育士という人間力を育む学校だからこそ、きめ細やかな教育が不可欠と考え、全学態勢で取り組んでいます。学生と教員の距離が近く、温かい人間関係を結びながら学べる教育環境を備えています。

#### 理論と実践の一致

教育特色の第2は理論と実践の一致があげられます。本学の教育は、保育に関する理論を深めるとともに、実際の保育現場で求められる知識・技能を実践的に学べるカリキュラムを編成しています。保育現場での実践教育とともに、さまざまな行事体験やボランティア活動に力を入れており、そこでの経験は保育者としての応用力を身につけることができます。

#### 地域に開かれた大学

教育特色の第3は、地域に開かれた大学・地域に根ざした教育を目指して、「ひとづくりとまちづくりを結ぶ地域交流活動」を積極的に行っています。

本学独自の様々な事業を企画し、地域に向けて文化交流、研究交流、学習機会の提供に意欲的に取り組んでいます。

また、「地域団体主催のイベント」にスタッフとして参加することを奨励しており、地域に活力と彩りを与えています。

### 4. 教育活動の実践

それではここからは具体的な「地域と学生を繋ぐ教育活動」の主なものをご紹介します。

#### 中央短大ミュージカル

昭和61年から継続して取り組んでいる「中央短大ミュージカル」は毎年5月に上演され、学生たちが主体となって全学態勢で取り組む一大イベントです。

文部科学省が選定する『特色ある大学教育支援プログラム』に平成15年度採択され、地道な教育実践が評価されました。

舞台には多くの地域の子どもたちが参加しており、練習、稽古が何度も繰り返されました。毎年



写真2 学内でのミュージカル練習風景

立ち見が出るほどの盛況振りで、学生と子どもたち、地域の人々が一体となって、感動体験を共有できる場となっています(写真2)。

#### 出前保育

出前保育とは地域密着型の出張保育ボランティアサービスのことを言います。出前保育の要請のあった機関、団体、施設の担当者と打ち合わせをします。そこで地域住民に提供するサービス内容、日時、場所について調整決めていきます。依頼のあった地域の保育現場や子育て支援サークルに出向いて、子どもたちや保護者に合唱、合奏、手品、ゲーム、ダンス、オペレッタ等を披露します(写真3)。

学生も決められた実習とは別に、子どもたちや保護者、保育・教育関係者と関わり、地域ぐるみの子育て支援に一役買うと同時に、保育者としての資質に磨きをかけています(写真4)。

#### 総合学習への参画

この取り組みは平成18年度から始まり3年目



写真3 ミュージカルの舞台



写真4 出前保育・製作援助



写真6 森の散歩・夏

を迎えています。隣接する田上町の小学校3年生の総合学習の一環で「田上町探検」をテーマに、本学の本来の現住所が田上町であることから、子どもたちが幼児教育を学ぶ短大であることを調べ、学校見学をすることから始まりました。本学が毎年加茂の文化会館でミュージカルを上演していることに興味を持ち、観る機会を得て、「自分たちでミュージカルを制作してみたい」という声があがり、本学の学生が小学校へ出向き、指導する機会を得ることができました。子どもたちと学生が共に創り出したミュージカルを保護者に向けて上演している場面です(写真5)。

子どもたちはこの取り組みを通して、人とかかわる力、課題を追求する力、表現する力、感謝する心が育っていくことをねらいとしています。学生はミュージカルの制作の経験を生かし、小学生の子どもたちとの共同作業を通してどのように子供たちに獲得してほしいねらいに沿うような指導、援助していったらよいかを課題にして取り組んでいます。



写真7 森の散歩・秋

#### 自然体験・森の散歩

この取り組みは、自然環境に恵まれている本学の周辺を、地域の子どもたちと散策する“自然体験・森の散歩”として定着し、好評を得ています(写真6, 7)。

子どもたちに自然の中で様々な植物や生物と出会う喜びや自分で遊びを作り出していくことの楽しさを伝えたいと願い、平成16年度から継続して実施しています。

#### 越後加茂川夏祭り参加

加茂市が主催する越後加茂川夏祭りは毎年8月14日に行われています。お盆に帰省する人々から加茂を懐かしんでもらおうとその日は様々な催し物が繰り広げられます。

中でも夜のイベントとして地元の民謡「加茂松坂」の踊りが加茂市を縦貫する加茂川の河川敷に、橋を渡して大きな円が作られ、さまざまな団体が参加し、生演奏と伸びのある民謡の歌声を聴きながら大観衆の視線を受け、踊りが展開されます。



写真5 出前保育での催し物

学校法人加茂暁星学園系列校の学生、生徒、教職員、卒業生が団体登録しています。本学の学生は毎年 100 人ほど参加し、お揃いのTシャツ、自慢の浴衣姿で、祭りに彩りを添えています。毎年、本番までには学友会が主催する加茂松坂踊りの講習会が地元の加茂松坂保存会の方を招き、行われます。

#### 小京都を楽しむ会へのスタッフ参加

加茂青年会議所が主催する小京都を楽しむ会は「地域おこしと青少年育成」を目的に平成 17 年から始められ、現在に至っています。加茂市の中心を縦貫する加茂川河川敷での実施を経て、現在は、加茂文化会館において行われています(写真 8)。

本学の学生は様々なワークショップと加茂文化会館大ホールでの催し物の裏方を担当し準備から当日の運営、後片付けまでを責任をもって行なっています(写真 9)。

毎年地域の方々から喜んでいただけるような催しものが行われています。

本学のミュージカルに出演した子どもたちと保護者がカモレンジャーショーや伝統的な加茂松坂民謡の踊りと歌詞を基に創作された「かもよいの舞」(よさこい風)の踊り手となって出演しています(写真 10)。

#### トキめき新潟国体普及活動

平成 21 年度開催される「トキめき新潟国体」のオープニングにおいて披露される“トッキッキダンス”の普及活動を本学の学生がボランティアで行っています(写真 11, 12)。

加茂市はボクシング会場になっており 11 月上旬にプレ国体が加茂勤労者体育センターにおいて開催されました。

加茂市内の公立保育所の子どもたちとともに開会式においてトッキッキダンスを元気いっぱい披露し、華やかなオープニングを演出してくれました。

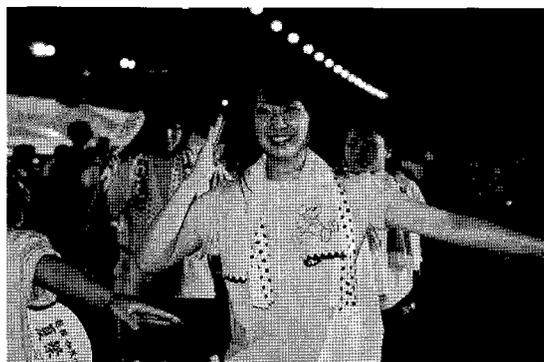


写真 8 お揃いのTシャツ姿で



写真 10 かもよいの舞の舞台



写真 9 家紋づくりのワークショップ



写真 11 トッキッキダンスの披露

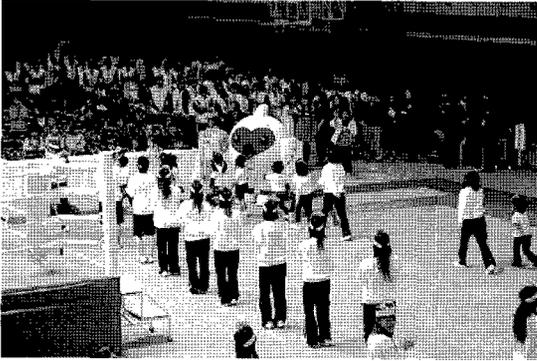


写真12 トッキッキダンスの披露

## 5. まとめ

これまで本学は、幼児教育科の短大として、地域に開かれた大学・地域に根ざした教育を目指し、ミュージカルを核として「ひとづくりとまちづくりを結ぶ地域交流活動」地域づくりを積極的に行ってきました。そうした活動は地域からの要請に支えられ、定期的なイベントとして定着することができました。

また、それぞれの活動は世代間交流の場となり、

その機会を提供することにより、いろいろな形で地域とのつながりを密接にしています。

今回紹介させていただいた交流活動は、学生をはじめ、子どもたち、地域の人々にとって様々な体験を通しての学びの場となり、地域を理解する機会になっています。

また、一人一人が持っている潜在能力の掘り起こしや、コミュニケーション能力・チャレンジ精神の獲得など自己啓発の場となっています。

これからの課題は自治体と連携した組織づくりが挙げられます。新潟中央短期大学が拠点となり、これまでの成果を地域と大学が織り成してきた交流活動のこれまでの成果を、自治体との連携、融合を図ることにより、まとまりのある取組とすること、ネットワークづくりが更なる地域おこし、地域づくりにつながっていくものと思われます。

以上をもちまして新潟県ならではの地域おこし、地域づくりの事例報告を終了させていただきます。

ご清聴ありがとうございました。